湘南医療大学　ティーチング・ポートフォリオ

大学名：　湘南医療大学
所属：　薬学部医療薬学科
名前：　須田　篤也
作成日：　２０２６年5月２２日

１．教育の責任

本学の薬学部では、学生の多くが将来的に薬剤師国家試験を受験し、薬剤師の資格を取得することを目指している。そうした状況にあって、本学では１年次から５年次まで英語学修を継続することで、グローバル化が進む医療現場に対応できる学生の育成を目指している。

私は、本学の英語教育の担当教員という責任があり、以下の授業科目を担当するものである。

科目名	対象学年	必修・選択
総合英語ⅠA	１年次	必修
総合英語 ⅠB	１年次	必修
英語 Ⅰ（基礎英語）	１年次	選択
総合英語ⅡA	２年次	必修
総合英語 ⅡB	２年次	必修
英会話	３年次	必修
科学英語	４年次	必修
総合英語Ⅲ	５年次	必修

各学年における主な学習内容は概ね以下に示すものである。１年次の英語科目では、医学や薬学に関する英語表現のために必要な基礎事項と専門用語を扱う。２年次においては、より高度な専門用語（薬学・医学用語）に触れる。３年次から５年次では，学生の薬学や医学についての知識が増え理解が深まってくることに伴って、より深い医学や薬学に関わる専門性の高い英語を理解することことを目指す。薬局でのOTC 薬販売および処方薬調剤など、将来の薬剤師業務を想定した英語知識を学修する。

２．私の理念・目的

（１）私の理念

グローバルな社会状況が進展する現状において薬剤師や薬学研究者に求められる実践的な英語力や論理的思考を培うことを目指す。現在、薬学研究者はもとより、薬剤師においても現場で英語に触れる機会がますます多くなっている。例えば、日常的に医薬品に関する最新情報がインターネットを通じて英語によって発信されている。それゆえ、薬剤の情報の収集や検索、薬学に関する文献の理解や成果の公表においても英語力は必要不可欠になっている。また、大学院進学のための入試や製薬会社への就職においても、高い英語運用能力が要求される。そうした様々なニーズに応える能力

を育成することが大学の英語教育に求められると考える。

（２）理念をもつに至った背景

これまで私の経験では、薬学部の場合には専門的な内容を含む英語教育の機会があるものの、それが必ずしも体系化されていたとは言い難く、特に必要に迫られた学生が自主的に勉強することが多かったように思われる。そうした状況で必要となる専門分野の英語学修は、文法などは一般英語と同様であるとしても、各専門分野に関係する多種多様な用語を理解し、発音なども含めて習得する必要性も大いにある。また、一般英語とは異なる特殊な表現および専門知識が存在することも多々ある。そうした専門性に応えることが大学における英語教育には必要であると考える。

３．教育の方法・戦略

本学では、グローバル化が進む医療現場に対応するために１年次から５年次まで継続的に英語教育を実施している。１年次、２年次に身に付けた基礎知識を基に、３年次以降は応用能力を身に付けることを目指す。また、将来の薬剤師業務に役立つコミュニケーションスキルも習得する。教材としてテキスト、テキスト添付の音声教材等を利用して授業を行う。授業の進行には独自に作成したパワーポイントも使用する。専門分野の論文の読解や記述のための語彙の獲得、聞き取りと発音、頻出する医療および薬学英語表現の例文を実際に演習しながら習得する。毎授業時、理解度を確認するための小テストを行うとともに、学生からの質問を受ける時間を必ず設ける。

４．学習成果

本学では、前期および後期の授業終了時に学生による授業評価アンケートを学生に求めている。以下に２０２５年度前期の授業のアンケート結果を示す。

2025 年度前期「英語Ⅰ（基礎英語)」のアンケート結果　（評価点 97.0）

質問内容	評価（%）				
	1	2	3	4	5
この科目に関する学習意欲はどうでしかた。	0	0	14.3	38.1	47.6
この授業の難易度はどうでしたか	4.8	9.5	71.4	14.3	0
この授業の内容は身に付きましたか	0	0	9.5	42.9	47.6
教員に熱意は感じられましたか	0	0	0	19.0	81.0
講義の進行速度は適切でしたか	0	9.5	90.5	0	0
１回の講義内容の量は適切でしたか	0	4.8	95.2	0	0
課題の量は適切でしたか	0	0	95.2	4.8	0

（自由記述の回答）

・　基礎で忘れているところがあったので、また学ぶことができてよかった。
・　英文法の復習になった。
・　確認テストが難しかった。

2025 年度前期「総合英語 ⅠA」のアンケート結果　（評価点 93.9）

質問内容	評価（%）				
	1	2	3	4	5
この科目に関する学習意欲はどうでしたか。	0	2.9	26.5	29.4	41.2
この授業の難易度はどうでしたか	0	2.9	61.8	20.6	14.7
この授業の内容は身に付きましたか	0	0	47.1	17.6	35.3
教員に熱意は感じられましたか	0	0	26.5	20.6	52.9
講義の進行速度は適切でしたか	0	8.8	73.5	14.7	2.9
１回の講義内容の量は適切でしたか	0	0	88.2	2.9	8.8
課題の量は適切でしたか	0	0	91.2	5.9	2.9

（自由記述の回答）

・　問題については神に印刷して配布すると取り組みやすい。
・　将来のために医療に関する英語を学べてよかった。
・　もう少しゆっくりしてほしい。
・　単語リストの配布がよかった。

2025 年度前期「総合英語 ⅡA」のアンケート結果　（評価点 86.0）

質問内容	評価（%）				
	1	2	3	4	5
この科目に関する学習意欲はどうでしたか。	5.9	0	50	17.6	26.5
この授業の難易度はどうでしたか	2.9	0	58.8	23.5	14.7
この授業の内容は身に付きましたか	11.8	2.9	50.0	26.5	8.8
教員に熱意は感じられましたか	8.8	0	26.5	32.4	32.4
講義の進行速度は適切でしたか	2.9	2.9	85.3	0	8.8
１回の講義内容の量は適切でしたか	0	2.9	82.4	2.9	11.8
課題の量は適切でしたか	0	0	79.4	8.8	11.8

（自由記述の回答）

・　教科書の暗記は役に立たない。
・　毎回の宿題が良い予習になった。
・　小テストで理解度が深められた。

2025 年度前期「英会話 A」のアンケート結果　（評価点 93.4）

質問内容	評価（%）				
	1	2	3	4	5
この科目に関する学習意欲はどうでしかた。	0	0	61.8	17.6	20.6
この授業の難易度はどうでしたか	0	0	79.4	17.6	2.9
この授業の内容は身に付きましたか	0	5.9	55.9	17.6	20.6
教員に熱意は感じられましたか	0	0	55.9	11.8	32.4
講義の進行速度は適切でしたか	0	4.2	94.1	5.9	0
１回の講義内容の量は適切でしたか	0	2.9	88.2	5.9	2.9
課題の量は適切でしたか	0	0	94.1	2.9	2.9

（自由記述の回答）

- プリントが多すぎる。
- もう少しまとまりのある構成にしてほしい。
- 自然な英語を聞く機会が得られてよかった。

2025 年度前期「科学英語」のアンケート結果　（評価点 92.3）

質問内容	評価（%）				
	1	2	3	4	5
この科目に関する学習意欲はどうでしかた。	0	7.7	30.8	38.5	23.1
この授業の難易度はどうでしたか	7.7	15.4	69.2	7.7	0
この授業の内容は身に付きましたか	0	0	46.2	23.1	30.8
教員に熱意は感じられましたか	0	0	15.4	7.7	76.9
講義の進行速度は適切でしたか	0	7.7	84.6	7.7	0
１回の講義内容の量は適切でしたか	0	7.7	76.9	15.4	0
課題の量は適切でしたか	0	0	84.6	15.4	0

（自由記述の回答）

- 課題が明確。
- 板書が見えずらいことがあった。
- これまで学んできた薬の知識を英語で復習出来て良かった。
- 教科書の内容が、今まで学んできた内容が多く含まれていて面白かった。

2025 年度前期「総合英語 III」のアンケート結果　（評価点 84.7）

質問内容	評価（%）				
	1	2	3	4	5

この科目に関する学習意欲はどうでしかた。	0	20.0	53.3	6.7	20.0
この授業の難易度はどうでしたか	0	20.0	80.0	0	0
この授業の内容は身に付きましたか	13.3	0	40.0	33.3	13.3
教員に熱意は感じられましたか	0	6.7	40.0	26.7	26.7
講義の進行速度は適切でしたか	13.3	20.0	60.0	6.7	0
１回の講義内容の量は適切でしたか	6.7	6.7	73.3	6.7	6.7
課題の量は適切でしたか	0	0	93.3	0	6.7

（自由記述の回答）

- スライドがわかり難い所があった。
- 問題に対する答えを明確に示してほしい。

５．改善のための努力

最終的に国家試験を目指す薬学部の学生にとって、英語科目は国家試験と直接的に関係がないという理由から、日々の学習意欲を維持することが非常に難しい科目である。学生の興味を喚起するための対策として、できるだけ専門分野と関連付けるなどの工夫をして学習意欲の維持に努めたいと考えている。また、近年では薬剤師が医療現場で英語に触れる機会が多くなっている現状や、医薬品に関する最新情報がインターネット等で英語によって発信されて、それゆえ知識や情報の収集に英語は欠かせない状況を学生に認識させることで、英語学修の重要性を理解させる努力をする。

６．今後の目標

医療や薬学、あるいは広く科学分野に関わる研究開発の最前線では、母国語が何であっても、どの国の学生や研究者であっても、英語理解力や英語でのコミュニケーションを求められる場面が多くなっている。また、最新の研究成果が英語によって発表報告されることになる。すなわち、科学技術の最先端で活躍するためには、英語運用能力が不可欠であると言える。そうした多様な必要性に十分に対応できる学修環境を整えていくことが重要と考えている。

【添付資料】

シラバス、学生アンケート、テスト原本、講義資料